

書類サンプルと説明のポイント (一例)

※数字は架空のものです

投資信託取引残高報告書 (定期交付)

作成日 2021年〇〇月〇〇日

口座の基本情報

取引店	投信口座番号	投信口座	債券口座
本店	1234567	投信口座 000000 源泉徴収選択 非課税口座開設	債券口座0000000

お取引の明細 ①

約定日 区分	銘柄等	数量 単価 お受取金額	お支払金額	その他備考等
2021.4.15 収益分配金	米国株式ファンド (一般)	12,500,000口 20.00円 25,000円 ②		NISA 口座預かり
2021.4.22 購入	豪州リート・ファンド (一般)	45,000,000口 4,000円	18,000,000円 ③	
2021.5.15 収益分配金	米国株式ファンド (一般)	12,500,000口 20.00円 25,000円		NISA 口座預かり
2021.6.15 収益分配金	米国株式ファンド (一般)	12,500,000口 20.00円 25,000円		NISA 口座預かり

お預かり証券等の残高明細 ④

銘柄名 預り区分 決算日 / 利払日	数量 基準価額 取得単価	評価額 個別元本	備考
米国株式ファンド (一般) 毎月15日	12,500,000口 ⑤ 14,550円 15,000円 ⑥	18,750,000円 14,550円	
豪州リート・ファンド (一般) 毎年8月10日と2月10日	45,000,000口 7,800円 8,000円	36,000,000円 7,500円	
お預かり金	0円		

①の欄のうち、②には収益分配金等が記される。③にはお客様がファンド購入にあたり支払った(指定の取引口座に入金された)金額が表示される。備考欄等にNISA等取引別の記載がある場合もある

④は各ファンドの時価評価額がわかる。⑤⑥の下にある「取得単価」とは、個別元本に10,000口あたりの取得費用(申込手数料+消費税)を表したもので、税法上のお客様の元本。なお基準価額が取得単価を上回っていれば「利益が出ている」状態であるといえる

取引例・サンプルで学ぶ

年末年始の時期に届く
投資信託の書類と説明ポイント

年末年始にかけて届く書類の見方やフォローのポイントなどを紹介します。

塩川 治明

サンプル1

取引残高報告書

取 引残高報告書(投資信託取引残高報告書)は、受益者であるお客様が一定期間に行う「売買」や受け取った「収益分配金」、「対象期間の最終営業日における残高」を知らせるための法定帳票です。

自行庫にて投資信託を保有・売買等するお客様を対象に、3ヵ月ごとに送られる書類です。最近では郵送だけでなく、Eメール等での電子交付を選択できる金融機関もあります。

サンプルに記載のある①「お取引の明細」、約定日区分の項目で見られる3ヵ月の期間が、その取引残高報告書の対象期間です。残高はこの期間の最終営業日のものです。

受益権口数は小数点以下を切り上げている

①の各欄は、入金し購入したファンドについての記載です。「銘柄

柄名等」の欄は購入したファンド名が記載されます。「数量」「単価」はそれぞれ購入してきたファンドの受益権口数と約定した基準価額です。約定日の基準価額が、受益者のこのファンドの個別元本になります。

③の「お支払金額」から銀行が受け取る購入時手数料等を除いた額に、約定日の基準価額を割って1万を掛けたものが、お客様の受益権口数になります。なお、受益権口数は受益者不利にしないよう、小数点以下を切り上げます。

収益分配金の支払いについては、預金通帳にも同じ内容の表示がありますのでお客様に確認してもらおうとよいでしょう。

④以降は、お客様が保有するファンドの時価評価額をお知らせするための欄です。「評価額」欄は、基準日における評価額を表しています。すなわ

ち、「お客様が保有するファンドが、基準日ではいくらになっていったか」を示します。

投資した金額に対して、この評価額とすでに受け取った収益分配金の合計額を合算した金額を比較することで、トータルリターンを検討することもできます。

保有するファンドについて、それぞれ⑤は基準価額、⑥が受益権口数を表します。簡単な計算式としては、⑥×⑤÷1万口＝評価額になります。

基準価額と1行下にある「取得単価」との差が、1万口あたりの評価損益額になります。お客様には、評価額を確認してもらい、最新の投資意向を確認するとよいでしょう。

「お預かり金」欄について、多くの場合、入金された預り金はそのまますぐにファンドの購入に充てられますので、決済口座に滞留することはありません。